

## サーチライト With Pastor Jon 創世記 4 章 パート 2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

今日、全ての症例、全ての状況ではないにしろ、ほとんどのケースで多くの人々が、鬱に対して医療の助けを求めています。しかし現実には、多くの場合、それは昔からある単純な罪による霊的な問題なのです。同意を得る前にはっきりお伝えしておきますよ。

こういうことを言うと「ジョン、あなたは医学を分かっていない。」と言われますから。

最近、非常に面白いものを見つけました。タイムやニューズウィーク、ライフ、その他の雑誌に度々掲載されている広告を目にした人も多いでしょう。抗うつ薬『プロザック』(PROZAC) これについて、とても重要なこととお話します。途中で消さないで最後まで聞いて下さい。ラジオを聞いている人、いいですか？

プロザックの製造者によると、引用〈鬱はあなたの問題ではない〉引用終わり。

鬱は人生を破壊し、患者自身も、またその患者を愛する人にとっても痛ましいものですが、これは原因があるれっきとした病気であり、治療ができるのです。

ある人々は、自分の意志で鬱から抜け出せると言いますが、それは間違い。臨床的に鬱状態になっている時は、セロトニンの分泌が下がっていて、睡眠障害が起こります。他にも気分の落ち込み、悲観的思考、集中力低下、食欲減退、倦怠感、憂鬱感などが鬱の症状です。それで、セロトニンを正常値に戻すために、多くの医療現場でプロザックが処方されています。ここでよく聞いて欲しいのですが、自分の意志で鬱から抜け出せるというのは間違いですよ。鬱状態ではセロトニン量が低下している。これは大変なことです。

鬱になるとセロトニンが低下し思考の変化が起こりますが、セロトニンが鬱の原因というわけではありません。鬱状態が体内の化学物質の変化を引き起こすのです。現代医学ではそれが数値で表されます。

プロザックの製造元によると、「鬱になるとセロトニン値が低下するのであって、セロトニンが不足して鬱になるのではない。鬱では思考は化学的に影響を受ける。気分が回復し始めると、医師は鬱を引き起こした根本的な原因に対処するため、カウンセリングやセラピーを勧める。まず治療して正常値に戻してから、次に、鬱に陥った本当の原因

を探る。」彼らが言うには「鬱は化学物質が原因ではない。」いいですか？ これはとても大切なことです。それで、私は医師たちや色々な人に質問し、「私が信じるところによると、聖書には鬱そのものについて、こう書かれています。」と指摘しました。

その前に、考慮しなければならない別の要素もお話しておきましょう。

先週の木曜日（\*1997年—訂正：創世記のこのシリーズは1994年ではなく1997年です）、クロニクル（\*サンフランシスコの新聞）の第一面の全紙面を飾ったのは、この前の日曜日にメドフォード・メイル・トリビューンに小さく掲載された記事でした。

そこにモルモットが登場していて、やっぱりかごの床の上にはいましたよ。

私はこの記事を保存してなくて、皆さんの中に、このニュースを耳にした人がいれば良いのですが。実物が手元になくてすみません。この記事は、サンフランシスコがサンフランシスコであることのもっともな理由を打ち出しています。（\*サンフランシスコは同性愛者が多い）

記事によると、ラットを使った新しい研究で、性経験が脳神経を変化させるということが分かりました。セックスによって、オスのラットの脊髄神経の一部が委縮するのです。

カリフォルニア州立大学（UC）バークレー校の教授が発表した研究によると、“同性愛者の脳とそうでない男性の脳の間には違いがあり、成人の性経験が解剖学的に神経系統の変化を引き起こす。”“同性愛者とそうでない人との脳には確かな特徴があり、両者の脳は違いが生じる傾向があるという結果を得た”という研究報告は、先週の大きなニュースでしたね。皆さん、いいですか？ 「彼らは同性愛者として生まれた」と正当化しようとする人たちに対してこの研究が語っているのは、“研究の結果、これらの脳の違いは性的嗜好によるものだという事が明らかになった”ということです。

恐らくこの教授は遠回しに「彼らの性的嗜好が脳に影響を与えている」と言っていて、今、この研究結果は非常に多くの支持を得ています。同性間のセックスが脳を変化させるのであって、脳が原因で同性同士のセックスに至るのではないということ。これはものすごいことです。もし私がこの発表の場にいたなら、もっとたくさん質問したいことがあったのに。これは本当に大変なことです。だからこそ、クロニクル・サンフランシスコ紙はトップ記事で扱ったのです。

「ちょっと待って。」「UCバークレー校の最新研究で!？」これは、ジェームズ・ドブソンやゲーリー・パウアーのようなクリスチャン学者によるものではなく、サンフランシスコの大学の研究者たちの、ラットを使った研究によって、同性間のセックスが脳に影響を及ぼすことが分かったのです。ビックリです。

興味深いことに、ローマ書1章に何と書かれていますか？ 『彼らは神が与えた性の目的に反することを“選び”、そのために神は彼らを“引き渡された”』

これはものすごいことなんですよ、皆さん!!! なぜなら世間が言っているのは「同性愛者なのは生まれ持ったものだから、責めないで。」

昨年発表された研究結果は、「同性愛者とそうでない人では、脳の違いがある。」

そして今年の研究では、「脳の違いに関しては、何が何に影響を与えるのか、すなわち、性的嗜好が脳に影響するか、それとも、脳の違いが性的嗜好に影響を及ぼすのか、が明白になった。」これは実にものすごいことです。

聖書は言います。『あなたが性的な罪を選ぶなら、その誤りの当然の報いを自分の身に受ける』 私は個人的にも、同性愛嗜好はその人の特質に大きく関連していると思います。これは生来のものではなく、その人が選んだ性的嗜好に起因して起こる変化によって同性愛者になるということです。彼らは罪を選んでいる。

私の知人は5人の子供の父親で、男の中の男でした。しかし、彼は踏み外し、40代後半になって性的嗜好が乱れ、

あらゆる異様な性行為をして、とうとう同性愛者になってしまいました。私は6年にわたって彼が変わっていくのを見ていました。話し方、外見、仕草…彼はとても男らしい男だったのに、私たちが思っている典型的な同性愛者と同じような振る舞いをするようになり、「私は昔からいつもこんな感じだったわ。」と言うから、私は「君はそんなんじゃない!!!! ずっと前から君を知っているんだよ!」

どうなるか分かりますか? 変わるんです。聖書に書いてある通りですよ! みことばで、はっきり表されています。

神はあなたが罪を選んだとしても、まだあなたを愛しています。でも、あなたはその身に罪の影響を受ける。もし、同性愛の道を選ぶなら、遂には、あなたの人となりや行動にそれが表れます。もし、あなたが鬱の中に生きることを選ぶなら、体内の化学物質にまで影響を与えることになるのです。「ジョン、何が言いたいんだ?」

聖書は私たちがすべきことを語っています。「カイン、なぜ鬱々としているのか? 正しいことを選びなさい。」私たち、現代の人間も、何をするのか、選ぶのは自分です。賛美の衣をまとうか、霊的重荷を背負うか、主にある喜びを選ぶか、自分を死に追いやる方を選ぶか。絶え間なく祈る事を選ぶこともできるし、全てに感謝する事を選ぶこともできる。

清さ、正しさ、愛と真実で行動すること、ほめたたえること、徳とされるものに思いを巡らすのか、それとも、彼や彼女や彼らに向かって怒ることを選ぶのか。もし、私が他のグループや誰かに怒りを抱いて生きることを選ぶなら、私は破壊されてしまうでしょう。

神はカインに言いました。「カイン、気をつけなさい。あなたは怒っているから鬱々としているんだ。正しいことを選ぶならあなたは上を向く。しかし、そうしないなら、戸口で待ち伏せしているライオンのランチの餌食になるだろう。正しい選択をしなさい。」

「ジョン、薬を絶対に使わないように、ということ?」違います。薬がダメだとは言っていません。そうではない。悲しいことに、人生の現実や墮落、何年も前にした罪深い選択や受け継いだことのためにひどい状態にあるケースには、安定させるための対処法として薬を利用することも必要でしょう。しかし、牧師として、牧師が仕事である兄弟として言います。それは、クリスチャンにとっては非常に稀な例外であって、多くの場合は違うのです。例外はあります。それでも、この地域で多くのクリスチャンが薬を飲んでいるのを目にし、関わり、悲しみの中にある牧師としては、果たしてどれだけの人が本当に薬が必要なのかと考えずにはられません。

神はみことばを通して、あなたが霊的な重圧を感じた時や顔がうつむきがちになった時にすべきことを語っています。ダビデは明言しました。

**わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。(詩篇 42:11)**

ダビデも鬱状態を経験したのです。まさしく私たちのように。

**わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。(詩篇 42:11)**

それから、彼は自分自身に向かって言います。「薬を飲もう!」いいえ。

**神を待ち望め。(詩篇 42:11)**

エレミヤも言いました。「骨々は痛み、目は涙で濡れ、砂利を嚙んでいるようだ。」

「それでも…それでも…私はこれを思い起こし、忘れない。」

**私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。(哀歌 3:22) 私たちの手をも心をも 天におられる神に向けて上げよう。(哀歌 3:41)**

彼は哀歌3章で、自身が深くて暗い鬱状態にある時に、「さあ、病院に行って医師に助けてもらおう。」ではなく、「私は哀しみの中でも礼拝することを選ぶ。」

**私たちの手をも心をも 天におられる神に向けて上げよう。(哀歌 3:41)**

「私は、神がして下さったことを忘れない事を選ぶ。」「私は、今の状況を乗り越える事を選ぶ。」

ここで、このメッセージを聞いている皆さん、例外があることを知って下さい。

私は、生活の様々な困難のゆえに、優れた支援や良心的な援助の恩恵を受けている人たちがこの中にいることをよく理解しています。それでもそれは、社会に於いて標準的な状況ではないことをどうか分かって下さい。私は、この問題について注意深く大きな知恵を持って熟考することを強くお勧めします。なぜなら、聖書を隅から隅まで調べると、鬱状態は罪や間違った選択の問題であって、処方や薬の問題ではないからです。

「ジョン、なんてことを！」「薬はちゃんと効果があるじゃないか。何が悪いんだ!？」

私は、全部がそうではないにしても、ほとんどの場合、薬が効いているとは思いません。

それは、多くのケースで根本的問題が解決されていないからです。

神は「カイン、あなたの悲しさが分かるよ。さあ、これを飲みなさい。朝には良くなるだろう。」とは言いませんでした。「カイン、それは罪の問題だ。」「あなたは怒っている。」「恨みを抱いている。」「赦さず、認めず、受け入れず、理解せず、苦々しく思っている。それが、あなたの顔を曇らせているのだ。」「カイン、正しい選択をしなさいやいけない。」「あなたが正しく行ったのであれば顔を上げられる。但し、正しく行っていないのなら餌食となる。」

(創世記 4:7)

しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき (創世記 4:8)

カインは憎しみを治めましたか？ 怒りを悔い改めましたか？ いいえ。

カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。(創世記 4:8)

主はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのではないでしょうか。」(創世記 4:9)

ここで、私は気づきました。よく考えてみて下さい。私たちが鏡の中の自分に語りかける時、または、誰かに相談に乗ってもらっている時、罪の中にいる人は、多くの場合、最後にこう言います。「彼がどうなろうと関係ない！ 彼が傷つけたんだから！」「彼女なんかどうでもいい！ あいつが悪いんだ！」「あんな奴ら、どうなってもいい。」「あの人たちのことは、私には責任はない。」「あっちが悪いんだ!!!」

怒り、憎しみ、赦さない心。正しいことを選ばなかったことにより、これらの思いがカインの中にずっと付きまといました。「私は、弟の番人ですか？」カインは弟アベルを殺し、「あんな奴、私には関係ない。」と言ったのです。

もし、あなたの人生に於いて、「彼（彼女）が早く死ねばいいのに。」「いなくなればいいのに。」「消え去ったらいいのに。」「どっかに行ってくれ！」と思う人がいるならご注意を！ あなたもユダの手紙にあるように、カインと同じ道を辿っているかもしれません。

赦さない心や恨み、敵意、怒りにとらわれることの問題は、それらがあなたを傷つけることです。ひどく傷つける。

「他の人も傷つけるじゃないか。見ろよ、アベルは死んだじゃないか！」では、アベルはどこへ行きましたか？ 天国です。

彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。(ヘブル 11:4)

アベルは今でも模範です。なぜでしょう？ 神学者たちは、アベルをキリストの青写真として歴史に残しています。

どのように？ アベルは羊飼いでした。イエスも羊飼いです。

アベルは受け入れられるいけにえを献げた祭司、イエスはご自身を、受け入れられる最高のささげ物として献げた偉大な大祭司。アベルが兄から憎まれたように、イエスも自分の兄弟たちから嫌われました。ここに「血が流された。」と書いてあります。イエスの血が流されたように。更にもう一つ。

そこで、仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。聞け。あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる。」(創世記 4:10)

ヘブル書でこのことに触れています。「イエスの血は、アベルの血よりもすぐれたことを語る。」(ヘブル 12:24) ここで言おうとしているのはシンプルなこと。

「アベルの血がわたしに叫んでいる」と神は言いました。何を叫んでいるのでしょうか？

それは、糾弾、裁き、告発のメッセージ。アベルの血は、「カイン、あなたが殺した！」「あなたが殺したのだ！」と叫んでいる。

そして、イエスの血もまた叫んでいます。但し、良いことを。何でしょうか？

それは、「赦された！」「贖われた！」「罪は洗い流された！」

今夜ここにいる人は、誰ひとり責められることはありません。なぜなら、私たちは小羊の血で洗い流されたのだから。ハレルヤ！

このように、アベルは、キリストの完全な型として聖書で最初に表された人です。

羊飼い、祭司、受け入れられたささげ物、理由もなく兄に憎まれ、その血は叫んでいる。同時に、キリストの血も私たちの問題の中で叫んでいます。

カインはどれくらいの期間、アベルを憎んでいましたか？ 可能な (able=アベル) 限り。

悲しい話です。ちょっとしたジョークなんかを入れてみましたが…

聖書を学ぶにあたってもう一つ知っておくべきことは、「あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる。」

(創世記 4:10) の箇所が、補足で『血』が『bloods』と複数形で書かれている聖書があります。

イスラエルのユダヤ人は今日でも、たとえば『ホロコースト記念館 YAD VASHEM』(ヤド・ヴァシエム)を訪れると、失われた命について、非常に興味深い表現をしています。

ユダヤ人はヘブル的思考で、一人を殺すと全人類を殺すことになると思っているのです。

なぜなら、一人を殺すことで、その人から生まれるはずだった子供、子供の子供、そして子供の子供の子供…というように、一人を殺したら全人類を殺すことになるからです。

生まれることができたはずの何千万、何億、何兆もの命。

逆に、一人を救うことによって、全人類が救われる。もし一人を救えば、何人の人が救われると思いますか？ だから、ヤド・ヴァシエム、ホロコースト記念館には、第二次世界大戦でユダヤ人を救った異邦人を記念して木が植えられているのです。

つづく

実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。(レビ記 17:11 新改訳 2017)